

- ★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号500253 1口500円にて毎週受け付けています。
- ★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:500252 1口1000円～にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
- ★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:500251 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
- ★JOSO脱プラ基金は注文番号:500254 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
- ★鈴木牧場・新牛舎応援基金 500255 1口500円で期間中(期間:2024年4月2回～2025年3月4回)は毎週募金できます。
- ★脱原発と暮らし見直し委員会「12年のまとめ」の印刷カンパ 500256 1口200円で毎週受け付けています。



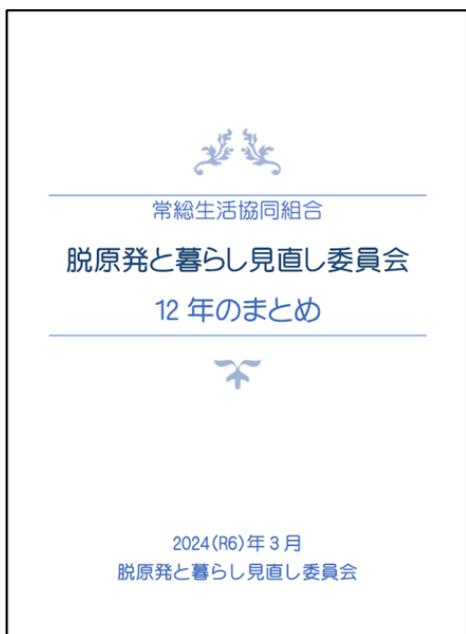
News Letter

2024年7月1回号 発行:常総生協広報G

2024-25年度活動テーマ(案)「ともしつくる・考える 私たちの食」

脱原発と暮らし見直し委員会 12年のまとめ 完成！！

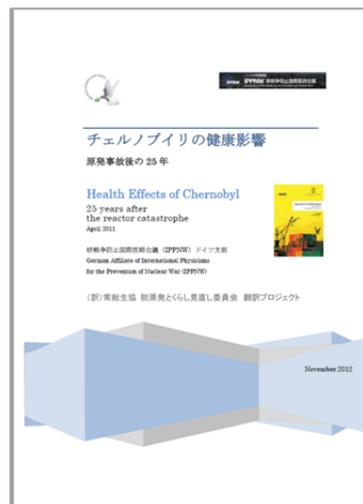
今週のカatalogと一緒に皆様へお届け



私たち脱原発と暮らし見直し委員会は、2011年3月の福島第一原子力発電所事故後の2011年9月に当時の村井和美理事長のもとに発足し、2012年から自主運営になり今日まで活動してきました。主な活動は、月1回の生協でのミーティングと、小グループに分かれての脱原発活動です。これまでに生協と協働して、講演会や学習会、上映会、見学会、会議の傍聴と参加、行政機関への申し入れ、調査や検診のお手伝い、ヨウ素剤配布、署名、デモへの参加など、生協や他団体と協働して様々な活動を行ってきました。また、長期継続活動として、「チェルノブイリの健康影響」の翻訳、ミニパンフレットの発行、土壌調査、近隣自治体セシウム検査結果の収集、DVD貸出などを行ってきました。

震災から12年余りが過ぎて、事故の記憶も薄れがちな昨今、当時の記憶とこれからも続く廃炉や除染作業への想いを新たにするため、委員会の12年の活動まとめの冊子を作りました。ぜひ一度お手に取って目を通してください。常総生協のホームページで、「脱原発と暮らし見直し委員会 12年のまとめ」を公開しています。ダウンロードして印刷することもできます。ご家族やご友人、組合員以外の方にもお知らせください。7月20日(土)「12年のまとめ」紹介&東海第二運転差止訴訟※の裁判報告会を企画しています。詳細は次のページにて。

印刷費用はこれまでに委員会にいただいた寄付金を使用しましたが、2万円ほど足が出てしまいました。引き続きカンパを受け付けています。
注文番号は「500256」1口200円です。よろしくお願い致します。



2024年6月・7月の予定

○生協基幹運営/地域活動・催し●	○提携・協同・連帯企画●
<p>○「常総っ子応援団」ゴンタで遊ぼうin流星台プレイパーク 毎週末曜日に外遊び活動をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/21(金)東海第2運転差止訴訟 第3回口頭弁論@東京高裁 ・6/30(日)甲状腺検診@三郷 ・7/7(日)甲状腺検診@取手 	<ul style="list-style-type: none"> ・6/20(木)茨城県生協連総会 ・6/29(土)多様性社会～子どもたちが自分らしく生きられる社会とは(共催学習会) ・6/30(日)我孫子げんきフェスタ

7/20 (土) 委員会「12年のまとめ」紹介&東海第二裁判報告会

「常総生協は福島事故を忘れないために裁判を起こしたんです」。初めて聞いたときは、その言葉が意図することがよくわからず、拍子抜けしてしまいました。「訴える」には、煮えたぎるような怒りがないと出来ないと思っていたからです。でも今、正に、2011年の福島原発事故から13年が経って、多くの人は本当に記憶が薄れ、忘れかかっているようです。政府が原発回帰（GX脱炭素法）に舵を切っても、世論の反応は緩慢です。「忘れる」という事は、同じ過ちを繰り返すかもしれない、重大な「責任逃れ」かもしれません。だとすれば、「忘れないための裁判」は全国の原発が再稼働に向かう今、とても大きな意味と責任を引き受けているように思います。

日時 7月20日(土)13:30~15:30

場所 常総生協本部 組合員活動室

内容 ①脱原発と暮らし見直し委員会「12年のまとめ」紹介

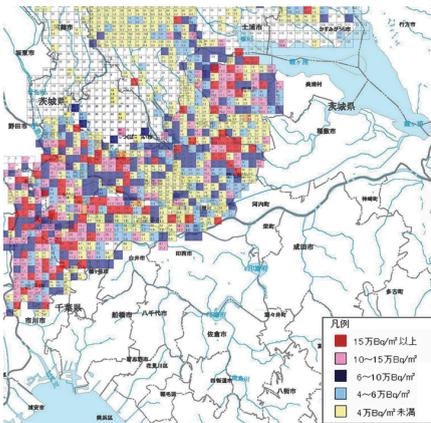
(委員長 高橋麻理さんより)

~かけがえのない「いのち」を守るために共に考え行動する材料として~

②東海第二裁判報告

(常総生協元顧問・原告団共同代表・大石光伸さんより)

~能登半島地震と東海第二原発、過小事故シミュレーションによる17万人の避難計画など~



「いのち育む食と地域環境を」大事にしてきた常総生協は、福島事故直後から様々な調査や行動を起こしてきました。3/17に茨城県産の牛乳が出荷停止になったことを受けて（放射能汚染のため）、3/21から組合員の協力のもと母乳検査を開始。3/26からは作物・土壌汚染の一斉調査を開始。9月に「脱原発と暮らし見直し委員会」が発足。2012年春に茨城県南～千葉県北西部の母親たちと15市町村約1,000箇所の土を集め、市民による土壌汚染マップをつくりました。エリアの67%が4万Bq/m²（放射線管理区域）を超える汚染があると分かり、土壌沈着量から外部被曝線量を推計。実測データは確かな被ばくの根拠となり、子ども達の健康影響を危惧して2013年9月に子ども達の健康調査をする「関東子ども健康調査支援基金」を立ち上げました。その過程で2012年7月、一番身近な老朽原発、日本原電の「東海第二原発の運転差止」を地域に呼びかけて水戸地裁へ提訴しました。2021年3月18日に歴史的な勝訴判決を勝ち取りましたが、すぐに日本原電が控訴したため現在も東京高裁で第2審が継続しています。6/21（金）は「第3回口頭弁論」があります。

日本原子力発電が5/16に発表した2024年3月期の連結決算は、純利益が前の期比38%増の24億円だった。全原発が運転停止中だが、電力大手から基本料金を受け取っている。再稼働を目指す東海第2原子力発電所（茨城県東海村）の安全対策工事の経費が増えた分、基本料金の収入も増え、売上高は5%増の967億円だった。（2024/5/16 日本経済新聞より）

東海第二原発は再稼働に向けて工事を進めています。発電していませんが、東電など電力大手から受け取る「基本料金」で巨額の利益を計上しています。東電はそれを私たちの電気代の原価に組み込んでいるので、日本原電の利益は、実は私たちが負担しています。

平和の集い 春の遠足「戦争の加害展」@横浜へ行ってきました！

横浜駅の神奈川県市民センターで市民グループが行っている「戦争の加害展」は今年で9回目。毎年、主要テーマを変えてのパネル展示と、映画上映、講演会など盛り沢山の内容です。例年は夏の開催ですが今年は春の開催。“春の遠足”と称して「常総生協平和の集い 市民学習会」の数名で行って来ました。

参加された方から報告レポートや感想が届きましたので紹介します。

○清水美智子さん（清水農園・組合員）

私は4月27日に参加しました。映画が2本上映された日です。資料が用意されていて、解説が有りました。



映画「南京！南京！」 2009年中国作品

- ・中国語圏では大ヒットしたが、日本では未公開。ボランティアが大奮闘して、日本語字幕を付けてくれた。1937年の南京事件を、追体験させられるが、パンフレットの冒頭に「一度見ただけでは分からない」と書いてある。植松青児さんが、事前知識が必要と、上映前に解説をしてくれた。（大石さんの後輩に当たる方）
- ・映画の内容があまりにも恐ろしくて、残酷とか酷いなどと感想を言っても、その衝撃は伝えようもないのです。それで、植松さんが制作した資料を、要約してお伝えします。

- ①日中戦争の目的は、蒋介石を倒して傀儡政権を作ることだった。
- ②正当防衛性など、一切揚げることが出来ない「侵略」だった。
- ③日本人は「大量虐殺」と言うと、広島、長崎などを思うが、これは単一の手段で、短時間に行なわれた殺戮だった。
 - ・南京事件は、大規模、中規模、小規模の殺戮が多数起きて、長く続いた。更に強姦、略奪、放火が多発した。人権侵害、戦争犯罪に当たる。



- ・南京事件における殺害パターン
- ①揚子江岸の包囲殲滅戦で、「敗兵」と「難民」をいっしょくたに殺した。それに当たった「熊本兵団」は正規の戦闘行為によるもので、虐殺ではないと反論している。
- ②捕虜に食べさせる食糧が無いので殺す。国際法違反。捕虜を確保しない。白旗をあげても殺す。日本軍の食糧も現地調達。市民から略奪。
- ③捕虜になっても殺されるので、民間人の服を着て兵士は逃亡する。「兵士がまぎれ込んでいる」と、難民収容所の徹底捜査の大義名分で、無意味な射殺が日常業務になった。軍法会議も無かった。
- ④必然性も無く殺す。一度残虐な行為が始まると、残虐な事に慣れ、一種の嗜虐的心理になる。
- ⑤性的暴行および殺害

米国伝道団病院には、輪姦された後に、銃剣で刺されたりした、被害女性が引っぱり無しに運ばれてきた。

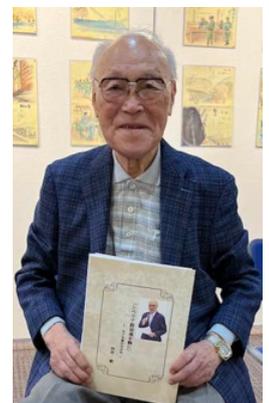
教科書では「南京事件」として、数行かかっているだけだった。「南京大虐殺」から「南京事件」に表示が代わり、今「無かった歴史を教科書に書くのはおかしい」と言う人達もいる。

加害者は戦争を語らない。日本人は、唯一の被爆国として、広島、長崎の体験者は、話してくれませぬ。

けれど、戦場で何をしてきたかは、語らないまま亡くなっていきます。ずっとトラウマに襲われながら、生きていたのだと思います。

○取手市から参加の組合員

戦争の加害パネル展に行くのは、私は昨年に引き続き2回目でした。パネルを読んでも、前提となる知識不足で内容がのみこめなかつたりはしますが、これからも戦争の加害について関心を持ち続けようと思っています。パネル展を毎年開催している主催者の方々の御尽力には頭が下がります。今回、印象に残ったことは、シベリア抑留者の99歳の西倉さんにお会いできたことです。とてもお元気そうで、かくしゃくとしていらっしゃって、すごいなあと感じました。



西倉さん

生産者と組合員と職員のひろば

～宇治田さんの養鶏が農業専門誌「現代農業」で連載中です～

宇治田さんと常総生協のお付き合いは2002年からなので、かれこれ22年が経とうとしています。

宇治田さんご夫妻は長年、有機農業の中に養鶏を組み込んだ、有畜複合型の有機農業（※）を営んでいます。その養鶏スタイルは、青草（牧草）をたくさん食べさせて丈夫な鶏に育てること。常総生協以外にも、歴史ある複数の消費者団体にも出荷しており「非常にレベルの高い卵」と評価されています。ただ、「卵質が良いのは結果であって、目的にしているわけではありません」と宇治田さん。ヒナの時から草を旺盛に食べさせて、成鶏になっても健康で丈夫な鶏に育てる、その結果としての卵です。

（※）有畜複合型の有機農業：有機農業の循環の中に畜産を位置づける農業。例えば鶏を飼い、鶏糞は堆肥化して畑に戻し、作物を育てる。その作物の一部を家畜にも与え鶏糞を得る...、という循環型の有機農業。

～記事の一部をご紹介します～

■牧草を主体にした平飼い養鶏

「茨城県石岡市で有畜複合有機農業をしています。畑1ha、田んぼ20a、養鶏700羽規模（ポリスブラウン）の小規模経営です。



ニワトリは新鮮な牧草を主体とした飼い方です。消費者と提携する「たまごの会 八郷農場」で明峯哲夫氏（故人）よりご教示いただいたやり方で、山岸式養鶏の一種として伝えられました。もともとは専業養鶏の技術でしたが、それを有畜複合に組み入れた形です」（「現代農業」2024/5月号より）～続きはぜひお求めを。生協で閲覧もできます～



宇治田さん夫妻



草をたっぷり与えます



草は食べやすい様に刻んで与えます

★「宇治田さんの平飼い卵」は固定番号【6番】です。ぜひ一度おためしください♪

★「マイセット」（1回登録すれば毎週自動でお届け）のご登録もぜひ！